

令和5年度

神山中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①必要な学びを意識させることにより、主体的に学習に取り組む態度を育成する
- ②やり遂げ感を実感できる学習活動により、確かな学力を育成する

【各校の取組状況の把握について】

学力向上委員会を適宜開催し、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な知識・技能の習得については一定の成果が見られる。家庭学習にもまじめに取り組む、出された学習課題も概ねやり遂げられている。 ●与えられた課題以外の自分でする学習が十分でないため、知識が定着していない生徒もいる。	・主体的に家庭学習に取り組む、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ・新しく習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面でも活用することができる。	・ICTを活用した授業研究会を実施する。 ・毎時間の授業のめあてを明確にし、振り返りをさせる。 ・家庭学習に『問題集データベース』と『タブレットドリル』を計画的に活用する。 ・教科ごとに単元末テストを実施し、知識・技能の定着を図る。 ・生徒会の『学力向上プロジェクト』を支援する。		・教科横断した有意義な研修ができた。 ・『日々学』や単元末テストは定着し、生徒の学習パターンができてきた。 ・『タブレットドリル』の取り組みに個人差がある。	・目標やねらいに応じた振り返りになるような問いかけをする。 ・『学力向上プロジェクト』については出題して解答するだけでなく、学習時間の記録や有効な家庭学習について生徒会が提案する。 ・単元末テスト50点以下の生徒への支援。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペア学習やグループ学習では積極的に発言する生徒が多い。よりよい意見や考えを導こうと努力する。 ●様々な文章や資料から適切な情報を得て、自分の考えをまとめ論理的に説明することを苦手と感じている生徒が多い。	・根拠を明らかにして、自分の考えを書いたり説明したりできる。 ・問題を解決するために必要な情報を選び、他者と話し合うことを通じて自分の考えを深め、表現することができる。	・ICTを適切に活用して、自分の考えをまとめる力をつけさせる。 ・根拠を明らかにして発言する機会を意図的に設ける。 ・10分間作文に取り組みせ、発表会を開催する。 ・合同学習で積極的に発言させる。 ・読書活動を通して、読書の習慣化を図る。		・教科書やインターネット、提示した資料などを使い説明することに慣れてきた。 ・根拠を挙げながら発言する機会は多くなったが根拠が曖昧だったり発言とずれたりしていることも多い。 ・10分間作文は学年が上がるに従って書くのが速くなり内容もよくなっている。 ・多くの生徒が読書の習慣が身につけていない。	・アウトプットを意識し、その機会を設定する授業を考える。 ・読書に親しむ仕掛けと時間を設定する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業には意欲的に取り組むことができる。ノーチャイム制だが、授業開始時には学習できる環境が整っている。発言も多い。 ●課題を仕上げることに満足して、自分に合った学習を計画的に進められていない生徒もいる。	・学習内容や学習態度のふり返りを進んで行い、その成果や課題を明確にして、主体的に学習に取り組むことができる。	・家庭学習のてびきや『やり遂げタイム』を活用して、家庭学習の仕方を習得させる。 ・あゆみに家庭学習時間を記録させる。 ・自主学習ノートを全教員で指導する。一部評価に結びつける。 ・定期テスト前計画表を活用し、各自の学習の仕方について成果や課題を明らかにさせる。		・家庭学習の習慣や内容の個人差が大きい。特に1年生の指導が難しかった。 ・自主学習ノートの全教員による指導は生徒への有効な助言につながった。 ・テスト勉強の重要性や計画の立て方がわかっていない生徒がいる。	・『やり遂げタイム』は全校縦割り班で実施する。 ・タブレットを利用して自分で選べるような課題の工夫。 ・自分に合った目標を明確にして、学習計画を立てる。

令和5年度 学力向上ロードマップ

